

# 日本人ゲストを招いた会話授業の試み

－韓国の大学における接触場面での学生心理の変化－

松浦恵子\*・小川靖子\*\*

(e-mail: \*mamechan21@gmail.com)

---

## 目次

---

|                            |                  |
|----------------------------|------------------|
| 1. はじめに                    | 5. 結果            |
| 2. 先行研究                    | 5-1. ふりかえりシートから  |
| 3. レディネス調査                 | 5-2. 「緊張軽減タイプ」   |
| 4. ビジターセッション実施概略           | 5-3. 「会話とは？」タイプ  |
| 4-1. 対象者、対象クラス 等           | 5-4. 「日本語力過信タイプ」 |
| 4-2. 1学期間の流れ (概略)          | 6. 考察            |
| 4-3. ビジターセッション当日の流れと<br>内容 | 7. 今後の課題         |
|                            | 8. 参考文献          |
|                            | 9. 付録1, 付録2      |

---

## 1. はじめに

韓国ではインターネットが広く普及し、インターネットや本を使えば、授業時間だけではなく教室外でも日本語に触れることが比較的容易にできる。日本語が外国語環境とは言え、日本語における4技能のうち「読む」「聞く」「書く」はかなりカヴァーできるのではないだろうか。しかし「話す」について考えてみると、ほかの3技能と比べ、教室外で触れること、特に日本語母語話者と実際に会って話すのはかなり難しいのではないかと推測される。これは、学習者にレディネス調査(付録1参照)を行った際、「先生以外の日本人と話したことがありますか」という問いには「いいえ」より「はい」の回答が多いものの、その会話内容を問うと「旅行中に道を聞いた」「アルバイト先に来た日本人と話した」など、短

---

\* 釜山外国語大学校/ビジネス日本語学部 助教授

\*\* 国際交流基金 ソウル文化センター

時間のもので、内容的に深くはなくその場限りのものが多かったことからもうかがえる。

韓国の大学では、「日本語会話」という名の授業が開講されている大学も多く、日本語母語話者の教員が担当するケースが多いようである。では、このような「会話」の授業を受け持つ教師は、日本語が外国語環境である学生にどのくらい日本語を話す機会を作ることができるだろうか。教室内では、韓国語が母語の学生同士で日本語で会話を作ってみたり、それを発表してみたりすることが比較的多いのではないかと推測される。しかし、当然のことながら、日本語母語話者と話す機会さえ増やせば日本語力が向上し、すべてが解決するわけではないが、上述した現状の中で、日本語母語話者の教師以外の日本語母語話者を招いた授業（以下、ビジターセッション）は、日本語を母語話者と「話してみる」そして「自信をつける」場や機会となり、学習者の日本語学習の幅を広げるのではないだろうか。本稿では、釜山外国語大学校で実施した教師以外の日本語母語話者を招いた授業（Aクラス、Bクラスの合計 2 クラス）について、学習者の心理面に焦点をあててその変化について報告する。

## 2. 先行研究

ビジターセッションに関する先行研究は、日本国内国外を問わず多くなされている。横須賀（2003）では、「自然なインターアクションができること」「高い動機付けにつながること」「学習者・ビジター<sup>1)</sup>両者の社会文化能力向上につながること」など、その有効性が数多く述べられている。また、Imura（2004）は、オーストラリアにおいて日本語母語話者を招いたビジターセッションを実施した結果、「学習者の聴解力」「会話力の向上」「社会文化理解を深める」のに有効であったと結論づけている。その他にも、パンダ（2005）では、インドでのビジターセッションについて学習者とビジター両方へのアンケートを分析し、「学習者は、教科書では習うことができない社会言語行動を日本語母語話者と会話することで学ぶことができる」とし、その一方でビジターセッション研究の継続の重要性や実施前のビリーフ調査、学習者およびビジター双方への事前説明の徹底などを述べている。

次に、韓国国内の状況を概観してみると、高等学校や大学の授業において日本語母語話者を招いてビジターセッションを行っている（または行ったことがある）機関は、少なくともその論文の形として残っているものは管見では多くはない。さらに、上述の先行研究

1) 授業に招かれたゲストのこと差す。

では、分析の対象は学習者の言語知識や運用能力、社会性、動機付け、などが主であり、学習側の視点からその心理面に焦点をあてて分類、分析している研究はあまり見られない。しかしながら、学習者へのレディネス調査の結果を見ると「緊張」や「心配」「恐れ」などは、学習者が日本語母語話者と会話をするときになんらかの形で影響を与えていることが予想され、無視することはできないものだと考えられる。本稿では、そのようなことを踏まえ、学習者が日本語母語話者のビジターと会話を通して何を感じ、心理的にどのように変化したかをまとめる。

### 3. レディネス調査

学期のはじめに、学習者の日本語使用、日本語環境の現状を把握するために事前アンケート調査（レディネス調査）を行なった。アンケートでは、日本人と話した経験の有無、どこでどんな人と日本語で話したか、日本人と話をする時に緊張するかなどを尋ねた。ここでは、主な結果を抜粋する。

< Aクラスのアンケートより（26人回答） >

・ 日本人と話した経験がありますか。

●ある … 26人

●ない … 0人

・ どこでどんな人と日本語で話しましたか。

●学校、観光地、アルバイト先で先生や留学生、日本人旅行者と。  
（すべて韓国国内）。

・ 日本人と話す時に緊張しますか。

●緊張する … 18人

<理由>・「あまり日本語ではなした経験がないから。」

・「間違えることがこわいから。」

・「話したいことはたくさんあるが、その意味がきちんと伝わっているか不安だから。」

・「私は外国人なのでいつ間違えるかわからない。」など

●緊張しない … 8人

<理由>・「まちがえるのに慣れました。」

・「間違えても説明してもらえるので緊張まではしない。」など

< Bクラスのアンケートより (11人中8人回答) >

・ 日本人と話した経験がありますか。

●ある …… 8人

●ない …… 0人

・ どこでどんな人と日本語で話しましたか。

●日本語の先生、観光地に来ている日本人、アルバイト先に来た日本人のお客さんと。(韓国国内)

●電車の駅で知らない人と、福岡の道で知らない人と、ホテルでホテルの職員と、ホームステイ先でお父さんとお母さんと、会社で社員と。(日本国内)

・ 日本人と話す時に緊張するか。

●緊張する …… 6人

<理由>・「日本人と日本語で話すのが怖い。」

・「間違えたら笑われるのではないかと思う。」

・「自分の話す日本語が日本人にわかってもらえるか不安。」

・「日本語が下手なのでバカみたいに見えるかも知れないから。」

・「聞くのは大丈夫だが、まだうまくしゃべれないから。」など

●緊張しない …… 2人

<理由>・「間違えてもみんな優しくせつめいしてくれるから。」

・「日本人と話すのに慣れました。」

学習者は、中級レベルになり日本語学習歴も浅くはなく、日本語の力は徐々についてきていると言えるが、海外という日本語環境のため、なかなか学校以外での特に教師以外の日本人との接触は少なく非常に限られていることがわかる。そのため、授業などで学んだ日本語の知識はあってもそれを運用する機会になかなかめぐまれないと言える。教師以外の日本人と接する機会があったとしても、それは観光地や学習者のアルバイト先であり、そこで使う日本語は道案内や商品の説明、会計など非常に限られた内容、文

法、語彙であることが予想され、そのような内容が流暢に話せたとしても深い話まで話すことができず、なかなか自分の意見や考えを日本語でのべる機会にはつながらない。さらに個人差も大きく、緊張や心配といった心理的要因が大きく関わっていることが垣間見ることができる。このような学習者たちの現状を踏まえて次章のようなビジターセッションをデザインし、実施した。

## 4. ビジターセッション実施概略

### 4-1. 対象者、対象クラス等

|         |   |
|---------|---|
| 実施時期    | : 2007年度後期 (9月～12月)   |
| 科目名     | : 中級日本語会話 (日本語学科の3年生対象クラス)<br>2クラス (Aクラス、Bクラス)  |
| 学生のレベル  | : SPOT <sup>2)</sup> テストを実施してレベル判定。最高点64点、最低点45点、平均点58.75点。   |
| 授業時間    | : 1週間に2日で計3時間<br>(「50分×1」が1日、「50分×2」が1日)<br>ビジターセッションは「50分×2」の日に実施。   |
| 学生数     | : Aクラス (28人) Bクラス (11人) 計39人  |
| 到達目標    | : 日本語教師ではない日本語母語話者と話題を決めて、ある程度の時間話す、というより実践的な会話体験をする (全体目標)。学生1人1人の目標は「ふりかえりシート」に記述しその次のビジターセッション後に達成度を尋ねた。                       |
| 日本人ビジター | : 日本人学校や日本人会、日本人会の婦人部、日韓交流協会などに依頼し、参加を募った。(知り合いの紹介も含む)。ゲストには事前に、日本語や日本文化を教える授業ではないこと、特に準備などは必要ないことを連絡。このビジターセッションを実施した時間が平日の昼間であっ |

<sup>2)</sup> SPOT(Simple Performance-Oriented Test)とは、筑波大学で開発された日本語能力簡易測定テスト。短時間で(65問で10分程度)、集団的に実施でき、採点も簡便であるという利点がある。テストでは、テープに録音された文を聞きながら、その文と同じ、解答用紙に記載された文中の空欄に、ひらがな1文字を書き取っていく。テストにはバージョンA、Bの2種類があり、今回はバージョンAを使用した。なお、日本語能力を判定する主な方法としてはJLPTやJPTもあるが、ある一定の級(点数)を持っていることは、会話能力の証明とはならないことも多く、JLPTの1級に合格していても会話ができない。またはJLPTを受けたことはないが比較的流暢にはなせる学生もいる。そのため本研究では、全員を同じ基準ではかるべくSPOTを用いることとした。

たため、ビジターは夫の赴任で釜山に滞在している主婦層が主であった。

ビジターセッション：計2回（10月／11月）

形態：1クラスの学生を3～4人のグループにする。1つのグループにゲストが1～2人入り学生が事前に準備した話題について話をする。

#### 4-2. 1学期間の流れ（概略）

| 月   | 学習者側  | ビジター側  |
|-----|---|--|
| 9月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・レディネス調査</li> <li>・SPOTテスト実施</li> <li>・語彙・単語</li> <li>・ビジターに対する言葉遣い</li> <li>・話題準備・ミニビジターセッション<sup>3)</sup>、担当決め（ビジターのお迎えやご案内、お見送り、飲み物準備、机のセッティング等）など</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジター募集</li> <li>・参加人数確認</li> </ul>   |
| 10月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回ビジターセッション</li> <li>・ふりかえりシート（宿題）（付録2参照）</li> <li>・ふりかえりシートおよび授業アンケートのフィードバック、</li> <li>・中間テスト<sup>4)</sup></li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケート<sup>5)</sup>の依頼・回収</li> <li>・ふりかえりシートフィードバック</li> <li>・ビジター募集</li> </ul> |
| 11月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジターセッション準備</li> <li>・語彙・単語</li> <li>・第2回ビジターセッション</li> <li>・ふりかえりシート（宿題）</li> <li>・ふりかえりシートおよび授業アンケートのフィードバック</li> <li>・レポート</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加人数確認</li> <li>・ふりかえりシートフィードバック</li> </ul>                                      |
| 12月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・お礼の手紙の作成、送付</li> <li>・期末テスト</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・お礼の手紙受取り</li> </ul>  |

3) 実際のビジターセッションの前に、来韓中の教育実習生たちとのミニセッションがあった。

4) 筆記試験。課題はビジターセッションの準備、ふりかえりを含め自分が感じたことや考えたことをまとめるもの。

5) 学生には「ふりかえりシート」をビジターには「授業アンケート」を授業後に配布した後日回収した。なお、これらは全て日本語で記述することとした。

#### 4 - 3. ビジターセッション当日の流れと内容

10月と11月に実施したビジターセッション当日の流れと内容は以下の通りである。なお、実施はAクラス、Bクラスともに同じ内容である。

<当日の流れ>

教師による挨拶、学習者によるはじめの挨拶、くじびきによるゲストの配置 (5分)

↓

自己紹介、アイスブレイキング (15分)

↓

学習者があらかじめ準備した話題で話す (70分+途中休憩時間10分)

↓

どんな話をしたか各グループの学習者代表が発表 (10分)

↓

学習者による終りの挨拶及びまとめと宿題配布 (10分)

計120分

<話題 (2クラス分) / 順不同>

- ・「家事の役割分担についてどう思いますか。」
- ・「韓国の旧盆はどうでしたか。」
- ・「日本の祝日について教えてください。」
- ・「趣味は何ですか。」
- ・「海外旅行の経験について教えてください。」
- ・「ドラマは好きですか。」
- ・「日本で就職するためにはどうすればいいですか。」
- ・「韓国はどうですか。」
- ・「(ゲストの) 恋愛から結婚までを話してください。」
- ・「韓国に来て一番びっくりしたことは何ですか。」
- ・「韓国に来て何か失礼なことをされたことはありますか。」
- ・「韓国人と日本人と一番違うのはどんなところですか。」
- ・「日本の男の人と韓国の男の人についてどう思いますか。」
- ・「日本の冠婚葬祭について教えてください。」
- ・「節約の秘訣」
- ・「日本のゴミの捨て方」「ゴミの利用の仕方」

- ・「日本のマナー」
- ・「日本の洗濯機の使い方」
- ・「血液型について」
- ・「主婦の生活について」
- ・「どうして釜山に住んでいらっしゃいますか。」

## 5. 結果

### 5-1. ふりかえりシートから

2回のビジターセッション終了後、学習者に課題として出した「ふりかえりシート」を分析・分類した。欠席者や宿題未提出者もいたため、2クラスで2回ずつのビジターセッション（計4回）の結果、回収できたのは70枚となった（39人×2回＝合計78枚）。その78枚を分析対象としKJ法により分類した。その結果、ビジターセッションを行う前と後の心理的変化を表す記述は、次のように3つのタイプに分けることができた。

- ① 「緊張軽減」
- ② 「会話とは」
- ③ 「日本語力過信」

次に、それぞれのタイプについて学習者の記述を抜粋しながら述べる。

### 5-2.①「緊張軽減」タイプ

レディネス調査の結果やSPOTテストの結果を見ると、学習者は中級クラスに該当する学年になり、日本語学習歴も浅い方ではなく、日本語力は少しずつついてきていると言える。しかし、海外という日本語環境のために、学校以外での、特に日本語教師以外の日本人との接触にはなかなか恵まれない。そのため、個人差もあるものの緊張や心配などの心理的不安が大きい。それは、以下の〈表1〉のような学生の記述に表われている。

＜表1＞ 「緊張軽減」タイプの学生の心理変化

| 学習者 | レディネス調査                        | 1回目ビジターセッション後                    | 2回目ビジターセッション後                      |
|-----|--------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|
| S1  | 「間違えるとバカにみえるのではないかと思う。」        | 「私は人見知りをするので最初の方はあまり話ができませんでした。」 | 「日本人と話してもあまり緊張しないと気が付いた。」          |
| S2  | 「間違えるのが怖い。どんな話題で話したらいいかわからない。」 | 「もっと盛り上がる話題を選ぼう。」                | 「もう日本人と話すことに十分慣れてきました。すごく楽しかったです。」 |
| S3  | 「間違ってもみんな優しく説明してくれるから緊張しません。」  | 「やっぱり緊張して知ってたことも思い出せなかった。」       | 「少しミスはあったが自信がついた。」                 |
| S4  | 「私は、誰と話しても緊張します。」              | 「緊張しました。」                        | 「初めは日本人と話すのが怖かった。でも慣れてきました。」       |

(一部原文抜粋)

### 5-3.② 「会話とは」タイプ

「日本人ゲストが来る」と学習者に伝え、「だいたい主婦ぐらいの年齢層の人たちが来る」と伝えても、それまで教師以外の日本語母語話者との接触がなかった学習者は、「日本の有名な場所について質問したい」「日本語での就職について知りたい」「芸能人、料理、ドラマなどについて話したい」などの話題を考えた学習者が多くいた。これらはの話題はビジターの出身地や興味とは全く関係なく、学習者が知りたいことを質問し、説明や情報を求めるようなものであり、自分が興味のあることを中心にしている。しかし、望んだ回答が得られず、逆に韓国について質問された時に答えに詰まりお互い苦笑いした経験を通して、当然のことながら日本人ならなんでも日本や日本人について答えることができるわけではないということを痛感している。さらに、同じグループ内で、ある話題に興味がないメンバー（例：芸能人に全く興味がない・スポーツに興味がない など）がいる場合は、日本語ができて内容についていけないため発言ができず、会話が頓挫する場面もあったようである。

〈表 2〉「会話とは？」タイプの学生の心理変化。

| 学習者 | レディネス調査                  | 1回目ビジターセッション後   | 2回目ビジターセッション後  |
|-----|--------------------------|---|--|
| S1  | 「韓国の食文化について話したい。」        | 「若い人と今回の主婦のゲストは興味が違う。」  | 「相手によって質問を変えること、人によって興味が違うことがわかった。」                            |
| S2  | 「日本人と何を話したいかまだ考えたことがない。」 | 「日本のことを聞くと相手が答えに困り、韓国のことを聞かれると私たちが答えに困りました。いままで、集められた生ごみがどこへ行くか考えたこともありませんでした。」   | 「日本人ゲストが知りたいことについて事前に調べておいた方がいい。」                              |
| S3  | 無回答                      | 「次に日本人と話す時は、質問と答えの繰り返しではなく、もっと会話的な会話をしてみたいな、と思いました。そうすれば日常の会話でも感動を探すことができると思います。」 | 「日本語が上手じゃなくても相手に関心を持って聞いたら日本語でも話しがわかるようになります。」                 |
| S4  | 「韓国のイメージについて聞いてみたい。」     | 「本当の会話をしました。会話に文法練習も例文もありませんでした。」   | 「話題の準備はあまり必要ないかもしれないと思いました。話がうまくすすんだ時は、準備しなかった話題もどんどんできてきました。」 |

(一部原文抜粋)

## 5-4.③「日本語力過信」タイプ

Aクラスは26人中3人、Bクラスは11人中3人が日本への語学留学やワーキングホリデーを経験していた。彼らは、事前アンケートでも「日本人と話すときに緊張しない」と自分の日本語力に、ある程度の自信をもっていたようである。しかし、ビジターセッション後のコメントは以下の〈表 3〉に見られるように、それはある意味自信過剰であったこと、話題や相手が変わると使う語彙や表現が変わるため、まだまだ日本語力向上の余地があると

感じた学習者もいた。

<表3> 「日本語力過信」タイプの学生の心理変化。

| 学習者 | レディネス調査                                 | 1回目ビジターセッション後   | 2回目ビジターセッション後              |
|-----|---|---|----------------------------|
| S1  | 無回答                                     | 「普通の会話は何の問題もないはずだと思っていた。しかしそれが自信過剰だったということ、そして日本語が話せるだけでは十分ではないと思いました。」 | 「もっと内容的なことも準備しよう。」         |
| S2  | 「日本人と話す時に緊張しない。」「日本語を話すのに慣れた」など         | 「自分は留学経験があるので会話はできと思っていたが、そうではないことに気がついた。」                              | 「会話がだんだん難しくなってきた。」         |
| S3  | 「ゲストの出身地の名物とか旅行の話、最近の日本のブームについて知りたいです。」 | 「会話のルールというのが、少しわかった気がしました。これからは誰と話し合っても相手にもっと配慮して話せると思います。」             | 「主婦のゲストは、相手に配慮しながら話せると思う。」 |

(一部原文抜粋)

## 6. 考察

レディネス調査で見られたように、日本語を話すときの1つの壁となっていた「緊張」が、ビジターセッションの回数は多くはないが、段階的に少なくなっていくことがわかる。これは、今まで短時間しか日本人と話したことがなかったが今回のビジターセッションによって「日本人とまとまった時間、まとまった内容で話す」という経験を通じて段階的に少なくなっていくのではないだろうか。1回目よりも2回目の方が心理的な壁が低くなり、そのため既習事項を頭の中で探りながら、どんな文型や表現を使って話せばよいかを考える余裕が日本語運用力向上につながったものを思われる。それが成功するとその経験を通して、日本語を話すことに対する自信が湧き「緊張」や「恐怖感」が薄れていくのだと考えられる。

次に、ビジターセッション前には、4-3に見られるように「日本人と話す」というよりも「日本人に質問する」や「日本人に説明してもらう」ような話題を準備したグループも多かった。しかし、2回のビジターセッションを経て形式に注意を払うことも重要だが話す内容（話題）も重要であることに気がつき相手に合わせた話題を考えられるようになってきた。これは、ビジターセッションを通して、日本人なら誰でも日本について説明できるわけではないこと、日本語が上手に話せるならどんな話題にでも対応できるわけではないことに経験的に気づいた結果と言える。さらに、ゲストから韓国や韓流スターについて質問された際に、日本や日本語には興味があるものの、自国のことについては関心を持ってこなかった学生は何も答えることができず韓国人だからと言って、韓国について何でも知っている、答えられるわけではないことにも気づいている。このことから、国や言語に関わらず自分が話している相手によって話す話題を変える重要性に気づいたのは、学習者にとって大きな成果ではないかと思われる。

最後に、語学留学やワーキングホリデー経験者について見ると日本に1～2年ほど日本に滞在した経験がある学習者は、相手が話す日本語が聞き取れて、自分もある程度言いたいことが言えれば「自分は日本語が話せる」と自信をもったようである。しかしそこに留まらず、5-4に見られるように話題が変われば内容的な事に言及できなかつたり、自分は興味のある話題でも相手がそうでなければ、会話は弾まないことを知り、相手に対する配慮や相手からの配慮に学び、会話における次のステップを見つけた学生がいることは、今回のビジターセッションの収穫のうちのひとつであると言えるだろう。

なお、今回のビジターセッションでは、Aクラスが26人、Bクラスが11人で人数に差があったが、レディネス調査やふりかえりシートの記述を見ると両方のクラスから似かよった回答が見られた。このことから心理的な変化に関してはクラスサイズはあまり影響しないと思われる。

## 7. 今後の課題

本稿では、ビジターセッションを通じた学生の心理面について、レディネス調査やふりかえりシートの記述を分類し分析した。その結果、たった2回のビジターセッションであったが、学習者はそれぞれ心理的な変化を経験、特に良い方向への変化を経験している。そのため、結果的にプラスに働いたと言ってもよいと思われる。

しかし、本稿ではビジターセッション前後の言語面での変化には焦点を当てていない。言語面へのケア及びフィードバックを授業内でどのように行なったかは次回の報告に譲りたい

と思う。次に、大学の授業としてビジターセッションを実施する場合、必ず学期末に成績を出さなければならない。ふりかえりシートの提出の有無を採点対象にすることは可能であるが、その記述内容、特に学習者の心理面に関する内容に得点や優劣をつけることはできない。今後は、このような授業を行う際の評価方法も慎重に検討する必要がある。

また、今回のビジターセッションの他にもスタイルとして、他にどのようなものが有効かを今後も継続的にその可能性についてみていく必要がある。そして、ビジターセッションを大学の授業で経験して、その後、学生の日本語学習（ストラテジーやリソース等）や対人関係に何か影響があるのか、あるとすればどのようなものなのか追跡調査することを今後の課題としたい。

## 8. 参考文献

- 岩田夏穂（2005）「日本語学習者と日本語話者の会話参加における変化 — 非対称的参加から対照的参加へ —」『世界の日本語教育』15 pp.135-151
- 梶原綾乃（2003）「留学生と日本人学生との交流推進を目的としたコミュニケーション教育の実践」『日本語教育』117号 pp.93-102
- 田中綾乃（2006）「ビジターセッションで学習者と日本人協力者は本当に「話せたか」」WEB版『日本語教育実践研究フォーラム』 pp.1-11
- トムソン木下千尋（1997）「海外の日本語教育におけるリソースの活用」『世界の日本語教育』第7号 pp.17-29
- バンダ・ナビン（2005）「ビジターセッションの効果と日本人協力者の役割 — MOSAI日本語学院におけるアンケートの分析から —」電子媒体 2009年5月・2011年1月閲覧
- 三登由利子(1996)「教師以外の日本人とのインターアクションを取り入れた会話授業の研究」日本語・日本文化22 pp.131-148
- 三牧陽子・竹内康恵・西口光一・難波康治（1999）「日本語学習者と日本人協力者による相互活動 — 日本語パートナー — 導入」『大阪大学留学生センター研究論集』第3号、pp.101-119.
- 横須賀柳子(2003)「ビジターセッション活動の意義とデザイン」『接触場面と日本語教育 — ネウストプニーのインパクト —』明治書院 pp.335-352
- Imura Taeko(2004) Let Learners Talk with Native Speakers Outside the Classroom in Your Home Country: Community Involvement Project 『世界の日本語教育』14 pp.125-148

## 9. 付録

<付録 1 >

— レディネス調査用事前アンケート —

### 中級日本語会話II

学籍番号 ( )

名前 ( )

～ 考えてみよう ～

1. 今まで日本人と話をしたことがありますか (チャット、メールは除く)。

はい

いいえ

2. どこでどんな立場の人とどんなことを話しましたか。

例) ( 大学 ) で、( 日本語の先生 ) と ( 授業 ) について

( ) で、( ) と ( ) について

( ) で、( ) と ( ) について

( ) で、( ) と ( ) について

( ) で、( ) と ( ) について

( ) で、( ) と ( ) について

3. 日本人の友達がありますか。

はい ( 人 ) → その友達と何語で話しますか ( 語 )

いいえ

4. 日本人と話す時、緊張しますか。

はい

いいえ

5. どうして緊張しますか (しませんか)。

6. 日本人と話す機会があったら、どんな話をしてみたいですか。

7. 今まで、どの国の人と日本語で話したことがありますか。

8. 一般の日本人が授業に来たら、どんな形式の活動がしたいですか。

(例: 発表、おしゃべり形式 など)

<付録2>

## 中級日本語会話II

### ふりかえりシート

学籍番号

名前

(日本人ゲストと話して)

1. 話し合いは楽しかったですか。  
4-3-2-1
2. 活動(かつどう)に積極的(せっきょくてき)に参加(さんか)しましたか。  
4-3-2-1
3. グループの人の話をよく聞き、よく話すことができましたか。  
4-3-2-1
5. 日本人と話して、気づいたことはなんですか。
  
6. 今日の活動でとてもうれしかったことはなんですか。
  
7. 今日の活動で困ったことはありましたか。
  
8. 前回の話し合いと、違うことはありましたか。何が違いましたか。6)
  
9. 次に日本人と話すときに、実行しようと思うことは何ですか。あなたの目標をかきましよう。
  
10. その他、気づいたこと・感(かん)じたこと・考えたことは何ですか。

6) 2回目のゲスト授業の後にのみこの質問をした。

## 要 旨

日本語を専攻する学習者達は、4 技能のうち「読む」「聴く」「書く」は学院に通ったりインターネットを利用して一人でも練習することができる。しかし「話す」についてはほかの3技能に比べ一人で練習することがかなり難しい。筆者は学習者に対するレディネス調査を踏まえ、日本語教師以外の日本語母語話者との会話の機会を学習者に与え、身につけた日本語の知識を運用すべくビジターセッションを実施した。ビジターセッション後は学習者にふりかえりシートという課題を出し、感想や次回への目標を尋ねる。そのふりかえりシートをまとめた結果、日本語母語話者とのビジターセッションを通して学習者の心理は3つのパターンで変化していることがわかった。それは、「緊張や心配軽減」「会話とは何であるかの認識」そして「自分の日本語力に対する過信」である。緊張や心配の軽減は、外国語を話す上で非常にプラスとなり学習者の日本語運用力を向上させることがわかった。次に日本人が授業に来ると聞いただけで喜び、自分達が日頃疑問に思っている日本や日本人に関しての質問ばかりが先立ち、相手によって合う話題とそうでない話題があるのを痛感した学習者もいた。最後に、日本への語学留学やワーキングホリデーを経験した学習者達は、自信をもってビジターセッションに参加したが、相手によって使う言葉を変えなければならないことや話題によっては日本語ができてでも全く会話についていけないことを経験し、さらに日本語を向上させる動機付けにつなげていた。さらに、本稿では、クラスサイズの異なる2つのクラスのデータを分析対象としたが、上述の傾向は両方のクラスで見ることができた。そのため、ビジターセッションを通した学習者の心理的な変化は、教師やクラスサイズに関わらず共通であると言うことができる。

キーワード：外国語環境 ビジターセッション 心理的な壁 心理的变化  
 会話授業、 言語知識、 運用能力

투 고 : 2010. 2. 28

1차 심사 : 2011. 3. 19

2차 심사 : 2011. 4. 2